

◆インフルエンザ、感染性胃腸炎が増えています。◆今週は腸管出血性大腸菌感染症の散発例の報告が4件ありました。加熱が必要な調理をするときは、中心部まで火が通るようによく加熱(85℃～90℃で90秒以上)しましょう。◆先週の細菌性胃腸炎に引き続き、今週はウイルス性胃腸炎、来週はロタウイルスの感染性胃腸炎について特集します。

### ●感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎)

ウイルス性胃腸炎は、ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスなどのウイルスの感染で起こる胃腸炎です。吐き気や嘔吐、下痢、腹痛、発熱などが起こります。ノロウイルスによる胃腸炎では、小児では嘔吐、成人では下痢が多い傾向にあります。ロタウイルスによる胃腸炎では、嘔吐、下痢(白色便)、発熱がみられ、乳児ではけいれんを起こすこともあります。

・感染経路は病原体が付着した手で口に触れることによる感染、吐物や便を介しての感染、または汚染された食品を食べることによる感染があります。流行期はノロウイルスによる胃腸炎は11月～3月、ロタウイルスは2～3月に多い傾向があり、アデノウイルスは年間を通してみられます。

#### ◆かかったらどうすればいいの？

・特別な治療はなく、症状に応じた対症療法がおこなわれます。  
 ・乳幼児や高齢者では、下痢などによる脱水症状をおこすことがありますので、早めに医療機関を受診しましょう。特に高齢者では、吐物が気管に入り誤嚥性肺炎をおこすことがあるため、様子の変化に注意しましょう。  
 ・嘔吐の症状がおさまったら、少しずつ水分を補給し、回復してきたら消化の良い食事をとり、安静に努めましょう。

#### ◆予防法は？

・帰宅時や食事の前、トイレの後に、流水と石けんでよく手を洗いましょう。  
 ・二次感染を防ぐため、患者の便や吐物の処理は、直接触れないよう使い捨て手袋やマスクを着用し、汚染された衣類や床などは、次亜塩素酸ナトリウムや熱湯、アルコール(ノロウイルスには無効)等でしっかり消毒しましょう。

感染性胃腸炎比較表も読んで、感染予防してね。



期 間		平成30年 47週		平成30年 48週	
		11/19～11/25		11/26～12/2(最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		9	0.36	22	0.88
RSウイルス感染症		4	0.25	1	0.06
咽頭結膜熱(プール熱)		6	0.38	8	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		28	1.75	41	2.56
感染性胃腸炎		95	5.94	125	7.81
水痘(みずぼうそう)		3	0.19	3	0.19
手足口病		11	0.69	7	0.44
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	1	0.06
突発性発しん		12	0.75	13	0.81
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		24	4.80	21	4.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00